

ハイリスク出生コホート研究に基づく 自閉スペクトラム症の超早期兆候の特定

自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorders :ASD)の有病率は増加の一途を辿っているが、早期発見と早期介入により生活適応度は改善する。しかし、実際には生物学的マーカーが確立していないこともあって早期発見は非常に困難であり、早期診断法の開発が待たれている。

ASDを抱える児の弟妹(いわゆるハイリスクケース:HR-case)を対象とした出生コホート研究に依り、HR-caseの発達軌跡を分析し、ASDの超早期兆候の絞り込みを行う。加えてHR-caseから見出されるASD-suspectedへの超早期介入と療育のpre-post効果を検証する。

HR-case 4名の質的分析からは、男児2名が3歳時点でASD-suspectedと見做されている。女児と異なりこの2名は共に、生後14ヶ月という超早期に、既に一般的な発達(gross motor/fine motor/visual-reception/receptive language/expressive language)の遅れを示しており(図1 & 2において、5種の発達指標が生後14ヶ月辺りから伸びず、下降線を辿るかに平均値以下に留まっている)、ASD発症の性差を考慮するうえで興味深い。

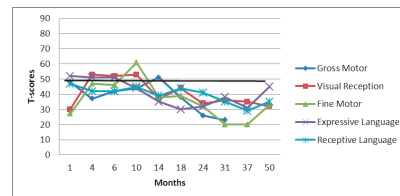


図1. HR-caseである男児A (2008年生まれの第3子)

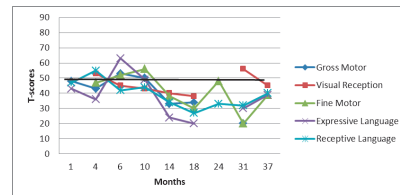


図2. HR-caseである男児B (2009年生まれの第2子)

小児神経学的指標を加えた包括的な児の発達評価を行うが、国際的に比較可能で質の良いデータ取得が可能となるよう、世界のgold standardとされる発達検査や評価尺度を使用している。児の発達は、遺伝要因のみならず、種々の環境要因との相互作用に依るため、親と家庭環境に関する項目に関しても幅広くデータを収集している。



松本 かおり 講師・博士(医学)

基礎教育部 修学基礎教育課程

所属研究所：心理科学研究所

Whitworth University卒。静岡大学大学院人文社会科学研究所臨床心理学専攻修士課程修了。浜松医科大学精神神経科入局。2006年子どものこころの発達研究センターにて浜松母と子の出生コホート研究(HBC-Study)の立ち上げと運営、2013年児童青年期精神医学講座における被災地(福島県)支援を経て、2014年現職。

研究者情報URL

<http://kitnet10.kanazawa-it.ac.jp/researcherdb/researcher/RBEACC.html>

Keyword

Neurodevelopmental disorders / Autism Spectrum Disorder (ASD)
high risk / longitudinal study / early detection